

新生戯曲展

SWEET DREAMS ASPIRATION

(スウィート・ドリームス・アスピレーション)

作：宇里香菜

ロゴ

SWEET

DREAMS

ASPIRATION

しんせいぎょくでんス ウィート ド リームス アスピレーシヨン
新生戯曲展 SWEET DREAMS ASPIRATION

(スウィート・ドリームス・アスピレーション)

作：宇里香菜

題名の意味について

スウィート (Sweet) とは

おも たべもの ひと おんがく もつ かわいらしさ みりょく ひょうげん
主に食べ物や人、音楽などが持つ可愛らしさや魅力を表現するのに
使われます。

あまい いみ たんご ひと もの かわい すてき
「甘い」という意味の単語ですが、人や物が「可愛い」ことや「素敵」だとい
うこと、また親切な人や思いやりのある人に対して、「優しい」と表現する
ばあい
場合もあります。

ドリームス (Dreams) とは

おも ゆめ きぼう やぼう いみ ふくすうけい ひとつ ゆめ ふくすう
主に夢や希望、野望などを意味し、複数形であるため、一つの夢ではなく複数
の夢を指すことが多く、また希望や野望の意味では、具体的な目標や願望を
さ指すこともあります。

スウィート ドリームス (Sweet Dreams) とは

よ ゆめ いみ ね あいて おも かぞく ゆうじん
「良い夢を」という意味で、寝ようとしている相手（主に家族や友人など）に
こえ とき つか ひょうげん
声をかける時に使う表現です。

アスピレーション (Aspiration) とは

つよ がんぼう たいし あこが こうじょうしん いみ あ もち たんご
強い願望、大志、憧れ、向上心の意味合いで用いられる単語です。

*** 情報伝達内容注意事項 ***

非定型抗精神病薬（セロトニン・ドパミン拮抗薬：SDA）の解説

薬の効果と作用機序 脳内のドパミン D2 受容体やセロトニン 5-HT2 受容体などの拮抗作用により、幻覚、妄想、感情や意欲の障害などを改善する薬統合失調症は脳内のドパミンなどの働きに異常が生じ、幻覚、妄想などの陽性症状や感情の鈍麻、意欲の減退などの陰性症状などがあらわれる脳内のドパミン D2 受容体の拮抗作用により、陽性症状の改善が期待できる脳内のセロトニン 5-HT2 受容体の拮抗作用により、陰性症状の改善が期待できる 薬剤によっては認知症の周辺症状（BPSD）などへ使用する場合もある。

統合失調症は感情や思考をまとめることができなくなってしまい、幻覚症状、妄想、会話や行動の障害、感情の障害、意欲の障害などがあらわれる。統合失調症では脳内の神経伝達物質のドパミンなどの働きに異常が生じ、幻覚症状、妄想、思考の混乱などの陽性症状では脳内のドパミンの働きが過剰になっている。ドパミンが作用する受容体の中で特にドパミン D2 受容体は統合失調症に関わるとされる。また統合失調症には感情が乏しくなることや意欲の減退などの陰性症状もあらわれ、この症状は脳内神経伝達物質のセロトニンの 5-HT2A 受容体を阻害することなどで改善が期待できる。本剤はドパミンの D2 受容体への拮抗作用によるドパミンの過剰な働きによる陽性症状の改善作用と 5-HT2A 受容体への拮抗作用による陰性症状の改善作用をあらわす。本剤は同じく統合失調症に使用する抗精神病薬の定型抗精神病薬と比較した場合に一般的には、パーキンソン症候群や高プロラクチン血症などの副作用への懸念が少ないとされている（薬剤によってその度合いは異なる）。また、本剤の中には認知症の周辺症状（BPSD：幻覚、妄想、夜間せん妄などの症状）などに対しても使用する薬剤もある。

なお、本剤はセロトニンとドパミンの両方の受容体へ拮抗作用をあらわすことから、SDA (Serotonin-Dopamine Antagonist：セロトニン・ドパミン拮抗薬) と呼ばれることがある。

主な副作用や注意点として、精神神経系症状錐体外路症状、頭痛、めまい、眠気などがあらわれる場合がある。アカシジア体や足を動かしたくなる、足がむずむずする感じなどがあらわれる場合がある。内分泌症状高プロラクチン血症などがあらわれる場合がある。悪性症候群頻度は非常に稀である他の原因がなく高熱が出る、手足が震える、身体のこわばり、話しづらい、よだれが出る、脈が速くなるなどの症状が同時に複数みられた場合は放置せず、医師や薬剤師に連絡する。

しんせいぎきょくでんス ウィート ド リームス アスピレーション
新生戯曲展 SWEET DREAMS ASPIRATION

(ス ウィート・ド リームス・アスピラシヨン)

さく うりかな
作：宇里香菜

とうじょうじんぶつ
登 場 人 物

セティーナ ()

「 」

ディデュダ ()

「 」

アリストローズ ()

「 」

シヅア ()

「 」

お一蛸助伍世 ()

「 」

ばめん
場面

やくしゃいたつ どんちょう あ き えんもくかいし
>役者板付き／緞帳上がり切り演目開始

かみておく
シヅア：上手奥

ちゅうおうしもて
セティーナ：中央下手

ちゅうおうかみて
ディデュダ：中央上手

しもてそでたいき
アリストローズ：下手袖待機

こどもたち へや
子供達の部屋

いちばんおく ふとん ねむ
シヅアは、一番奥の布団で眠っている。

シヅア「・・・・・」

ねむ したく お うらな あそ
セティーナとディデュダは、眠る支度を終えて、タロットカードで占い遊び
あす こと うらな あそ
をしながら明日の事を占って遊んでいる。

うんめい う い
セティーナ「どの運命でも受け入れなきやいけないっていうのがね」

あ まえ うらな
ディデュダ「当たり前でしょ。タロット占いってそういうもんなんだから」

まちが こと だれ
セティーナ「ほらやっぱり間違える事もあるじゃない、誰しもさ」

かみさま まちが
ディデュダ「神様は間違えません」

まえ かみさま い とお い えんえん ひ の
セティーナ「えーこの前、神様の言う通りとか言いながら、延々と引き延ばし
だれ
ていたのは誰」

かみさま きぶんや
ディデュダ「あーあれは、あーそうそう、神様も気分屋さんなところもあるか
ら」

セティーナ「それ、ズるいでしょ」

かみさま えら
ディデュダ「まあまあそれはそれ、これはこれ、さあさあどれを選ぶの」

セティーナ「うーん、じゃあこれ」

ディデュダ「ほほう、そうですか、そうですか」

なに はや おし
セティーナ「何、なんなの。早く教えてよ」

ここに、アリストローズが子供達の部屋に飛び込んで来る。

アリスローズ「ねえねえ、みんな聞いて、^きわたし ^{おもしろ}おまじな ^てい 私、面白い御呪いを手に入れました」

ディデュダ「えー何々、教えて」

セティーナ「ちょ、ちょっと私の占いの結果は」

ディデュダ「まあまあそれより面白い御呪いの方が、興味あるでしょ」

アリスローズ「ねえ」

セティーナ「それはディデュダが、興味あるんでしょ」

ディデュダ「はいはい」

シヅア「・・・・・」

シヅアは^{ねむ}眠っている。

アリスローズ「じゃじゃーん」

手に持っていた紙を大袈裟に拡げる。

アリスローズの方を向いて同時に歓声と拍手。

セティーナ「わー。ぱちぱち」

ディデュダ「おー。ぱちぱち」

アリスローズがお辞儀をする。

アリスローズ「それでは読ませて頂きます」

仰々しく（物事を誇張また大袈裟に言ったりする様子）

セティーナ「・・・・・」

ディデュダ「・・・・・」

アリスローズを見つめる。

シヅアは^{ねむ}眠っている。

シヅア「・・・・・」

アリスローズ「先ずね、用意するものがあって『描くものと描かれるもの、もう一つは、描くものと描かれるもので描いた大切なと大事な約束を入れて

つく ろうそく
作った『蝶燭』だって」

セティーナ 「描くものと」

ディデュダ 「描かれるもの」

セティーナ 「もう一つは、描くものと描かれるもので描いた大切な」と」

ディデュダ 「大事な約束を入れて作った蝶燭」

セティーナとディデュダが、考えながら復唱する。

アリスローズ 「まだ、説明には続きがあって『星空のクレヨンと燈火色の葉に、あなたの大切なと大事な約束を描いて』って」

セティーナ 「星空のクレヨンなんて持っていたかな」

ディデュダ 「燈火色の葉ってどういうものなの」

セティーナ 「作った蝶燭って、何、どうやって作るの」

ディデュダ 「描いたものを入れるんだよね」

アリスローズ 「まあまあ待ちなさいって、焦らない焦らない、この後にね蝶燭の作り方が描いてあるの」

セティーナ 「じゃあ早く続きを読んで、勿体ぶらない」

ディデュダ 「何々あーもう気になる」

アリスローズ 「はいはい、じゃあ続きを『トケイソウ好きな蜂のお家をカリッと押借、甘酸っぱい桃の種もガリッと碎いて、とろりと甘い蜜も忘れず一緒に、ぐるぐる混ぜ混ぜ、吃驚させないようにゆったり温めて、くるくるとろとろ、まんまる小瓶に詰めたら、燈火色の葉 ポッチャンヒンヤリ冷やしてできあ出来上がり』って」

セティーナ 「だって」

ディデュダ 「だって」

シヅア 「・・・・・」

シヅアは眠っている。

アリスローズ 「だって」

セティーナ 「いやいや、これって、なぞなぞなの」

ディデュダ 「全然、何を言っているのか分からなかった」

アリスローズ 「謎が謎を呼んで謎が深まりますなあ」

セティーナ 「ちょっとその紙読ませて」

ディデュダ 「わーセティーナが、やる気になったみたいね」

セティーナ 「やる気って、分からぬのが気持ち悪いだけ」

アリスローズ 「はい、どうぞ」

アリスローズがセティーナに 恭 しく（相手を 敬 って礼儀正しく振る舞うことを意味）紙を渡す。

セティーナ 「どれどれ『トケインソウ好きな蜂のお家をカリッと搾借、甘酸っぱい桃の種もガリッと碎いて、とろりと甘い蜜も忘れず一緒に、ぐるぐる混ぜ混ぜ、吃驚させないようにゆったり温めて、くるくるとろとろ、まんまる小瓶に詰めたら、燈火色の葉 ポッチャンヒンヤリ冷やして出来上がり』かあ」

ディデュダ 「わーもう分かったの」

アリスローズ 「おーもう謎を解いたとは」

セティーナ 「…………今、考え方中」

ディデュダ 「なーんだ」

アリスローズ 「なーんだ」

シヅアは眠っている。

シヅア 「…………」

セティーナ 「なーんだ。って何、もうそんなに早く分かるはずないでしょ」

ディデュダ 「それなら一つ一つ考えてみよう」

アリスローズ 「謎が解けないと御呪いも出来ないからね」

セティーナ 「とにかく、まずは、描くものと描かれるものを集めて来ましょう」

ディデュダ 「はーい。じゃあ 私は描くもの担当」

アリスローズ 「じゃあ描かれるもの担当。セティーナの担当は…………」

セティーナ 「ちょ、ちょっと待ってよ、ふたりとも。集めて来る前に覚えてい
るの」

ディデュダ 「勿論」

アリスローズ 「勿論」

セティーナ 「本当かなあ」

ディデュダ 「じゃあ早速」

アリスローズ 「よーい、ドンッ」

シヅアは、寝返りを打つ。

セティーナ、ディデュダ、アリスローズが、部屋の中を探しに行く。

セティーナ 「うーん、これかな。あとこれかな」

ディデュダ 「きっとこれだよね。大きいし」

アリスローズ 「多分、この長いのが、そうだよね」

セティーナ 「はい、ふたりとも見つかった」

ディデュダ 「これ」

アリスローズ 「これ」

セティーナ 「違います。ふたりとも、全然覚えていないじゃない」

ディデュダ 「あはは」

アリスローズ 「あはは」

セティーナ 「これとこれ・・・・・・だと思う。多分。星空のクレヨンと燈火
いろ しおり 色の栢っぽいのは」

ディデュダ 「そうそう多分それ。星空のクレヨン」

アリスローズ 「うんうんきっとそれ。燈火色の栢」

セティーナ 「なんか心許ないけれど・・・・・・大切なのと大事な約束を
か描きましょう」

ディデュダ 「はーい」

アリスローズ 「おまじな たの 御呪い楽しみ」

シヅアは、眠っている。

シヅア「・・・・・」

じゅんばん たいせつ だいじ やくそく か お ひと うた だ
順番に大切なと大事な約束を描き終えた人から歌い出す
か お じゅんばん じゅんばん
描き終える順番は、セティーナ、ディデュダ、アリストローズの順。

かしょう
歌唱

マイ フェイバリット シングス
My Favorite Things

セティーナ、ディデュダ、アリストローズが順番に廻りながら歌う。

いちごあじ あめ かた あ まほう
セティーナ「苺味の飴とカリカリトースト、肩が開いたワンピース、魔法の
はこ いろ ぱうし めがね ちい ころ おもで
匣、ミルクティー色の帽子とシマリスのサンダルに眼鏡、小さい頃の思い出」
か そ う げんじつ せ か い お お くち かい ぶつ ちい にんぎょ
ディデュダ「チョコレートとウィンナー御飯、黒色のズボンに黒いトレーニン
グシャツと魔法の匣にお財布と鞄、お気に入りのキャップと蛍光ピンクスニ
ーカーに眼鏡、仮想現実の世界に大きなお口の怪物と小さな人魚」
め が ね す い か み じ か た ん あ め
アリストローズ「西瓜ポンチにパンと短い短パン、飴にチョコレートにグミに
カステラ、白い帽子にサンダル、キラキラ指輪を嵌めて読むのは爬虫類の本」

セティーナ、ディデュダ、アリストローズが、くるくると廻り終えたら、曲が
フェードアウト。
そのままそれぞれの眠る位置に移動し眠る。

ねむ い ち い ど う ねむ
セティーナ、ディデュダ、アリストローズが眠るとシヅアがゆっくりと起き出す。
マイ フェイバリット シングス はなうた うた だ
シヅアがたどたどしくMy Favorite Thingsを鼻歌で歌い出す。

かしょう
歌唱

マイ フェイバリット シングス
My Favorite Things

シヅア「チョコレートに目玉焼き、黒系の服にジーンズ系のズボン、魔法の匣、
お財布、お買い物用のバッグ、ウェットティッシュ、色々入っているポーチ、

お気に入りのキャップ、サンダル、スニーカー、ヒール、ピアス、ネイルチップ、眼鏡、幸福な王子、夜更かしの歌……」

セティーナ、ディデュダ、アリストローズは眠っている。

シヅアは部屋を見廻しながら呟く

シヅア「……わたしの気に入りのもの、好きなもの……」

テーブルに置かれた一冊の絵本を手に取り聞く。

シヅア「……『トケインソウ好きな蜂のお家をカリッと搾借、甘酸っぱい桃の種もガリッと碎いて、とろりと甘い蜜も忘れず一緒に、ぐるぐる混ぜ混ぜ、吃驚させないようにゆったり温めて、くるくるとろとろ、まんまる小瓶に詰めたら、燈火色の葉ポッチャンヒンヤリ冷やして出来上がり』これ……いつも眠れない時に読んでくれた絵本だ」

部屋をぐるりと歩きながら過去の楽しかった思い出の品を探しながら。

シヅア「お出掛けの時は、いつも両手を繋いでくれた。翳す程に眩しい暗いギラギラと輝く夜空の丘を越えたら、ふわって肉体が空を飛んだ日。鮮やかな閑伽を注ぐ器が満たされた瞬間……何もかも色彩が失われ灰色の泪が墮ちる度に、また大きな音を立てる。静寂なんて魔法を使うよりも難しいのかな」

蜂蜜が入っている小瓶を取り、味を思い出しながらちょびっとだけ舐める。

シヅア「こんなところに隠れていたのかくうーん、やっぱり良い香り、匂いを嗅いでいるだけなのに、何だか甘い。風邪を引いた時にちょびっとだけ舐めるの好き。もう咽喉は痛くないけれど、ちょびっとだけ」

食べ終わった桃の種を手に取って、ポケットにしまう。

シヅア「美味しいかったなあ……」

ふしぎ 不思議なキャンディ^{はい}が入っている小瓶^{こびん}を手に取る。

シヅア「このキャンディ・・・・・・」

ふしぎ 不思議なキャンディ^{かくだ}をごっそりと噛み碎きながら^た食べる。

おもいで 思い出のアルバムを開いて一枚だけ写真^{ひら}を抜き取る。

シヅア「・・・・・・これだけ」

すこ 少しだけふらつきながら舞台中央^{ひら}に置かれたテーブルに片付け忘れた星空^{ほしざら}の
クレヨンと燈火色の葉^{くわ}を見つける。

シヅア「・・・・・・御呪い」

シヅアが、舞台中央^{ぶたいちゅうおう}のテーブル奥側^{おくがわ}で、燈火色の葉^{くわ}に星空^{ほしざら}のクレヨンで描き
ながら俯く。

シヅア「逢いたい・・・・・・逢いたいよ・・・・・・」

シヅアは、塞ぎ込んだ気持ちのままゆっくりと顔^{かお}を上げるテーブルの下手側^{しもてがわ}
手前に、見た事も無い古びた虹の万華鏡を見つける。

シヅア「あれは・・・・・・なんで、こんなところにあるはず・・・・・・」

シヅアが古びた虹の万華鏡を取りに行く。舞台中央^{ぶたいちゅうおう}のテーブルの手前に座る
(客席側^{きやくせきがわ}に背^せを向^むける)。

シヅアが古びた虹の万華鏡を覗く。

シヅアの生まれた日の思い出：スターターズキッドーナツオルゴール(古びた
虹の万華鏡付)

オルゴールの曲名^{きょくめい}：ポップンデジカム

>舞台ブルー転換、回転照明のスポットが舞台中央後方^{こうほう}にあたる。ゆっくり
と舞台が明るくなる。

蒼の世界蛸助家族^{あお}のアクアリウム

アリスローズが蛸のぬいぐるみ顔に当てながら。

アリスローズ「僕は『お一蛸助伍世』だ。皆の者、甘くて美味しい食べ物を持って参れ。沢山だぞ。ほれほれどうした。早く早く」

セティーナ「…………何『お一蛸助伍世』って」

ディデュダ「怖い怖い『お一蛸助伍世』って海の怪物でしょ」

アリスローズ「僕は、太平大西大海原に漂う怪物の中の怪物と呼ばれているか呼んでいるか呼んだか『お一蛸助伍世』じゃ。因みに僕のお父さんは『んん一蛸助肆世』おじいちゃんは『えむう一蛸助参世』ひいおじいちゃんは『えるう～蛸助弐世』ひいひいおじいちゃんは『けえ～蛸助壹世』じゃ、分かったか」

セティーナ「ねえ、どういうこと…………」

ディデュダ「『蛸助群団』じゃん。おお一怖っ」

アリスローズ「ふあつふあつふあっどうじゃどうじゃ」

セティーナがアリスローズにパンを渡す。

セティーナ「はいっどうぞ。美味しいものって言っても、此処には小さなパンしかないけれど…………」

ディデュダ「はいッどうぞ」

アリスローズ「ありがとう。ありがとう。」

>シヅアが、顔を上げる。

シヅア「どういうこと。何、これは…………」

セティーナ「おはよう、シヅア」

ディデュダ「タロット占いやろう、シヅア」

アリスローズ「パン食べる、シヅア」

セティーナ「それっ私があげたパンじゃない」

ディデュダ「そんな小さなこと良いじゃない」

アリスローズ「そうそう小さなパンなんだから。そんな小さなこと気にしない気にしない」

シヅア 「…………おまじな御呪い」

セティーナ 「そうおまじな御呪い」

ディデュダ 「おぼえているおまじな御呪い」

アリスローズ 「特別なおまじなつづ御呪いの続き」

シヅア 「覗いたら…………」

セティーナ 「いつもねむるまえ前に」

ディデュダ 「ねむるまで」

アリスローズ 「読みきえほん聞かせしてくれた絵本」

シヅア 「…………おもだなにもちろんおぼえよるよ。いつも夜になるとねむれないわたしのためよおぼれの為に読んでくれたから…………おぼれている」

セティーナ 「おまじな御呪い」

ディデュダ 「おまじな御呪い」

アリスローズ 「おまじな御呪い」

シヅア 「…………それがおまじな御呪いなの…………じゃあいつもおまじな御呪いをしていたってこと、そんなに大事なことなんて書いてなかつたと思うけれど」

セティーナ 「もうじゅんび準備」

ディデュダ 「ばんたん万端」

アリスローズ 「出来あがつてきあ」

シヅア 「じゅんび準備なんてわたし、なに何もしていない。だれわたし誰も私のことなんて知らない。」

セティーナ 「きょう今日は」

ディデュダ 「すてき素敵」

アリスローズ 「たんじょうび誕生日」

シヅア 「…………誰の」

> 3人ともにんどうじい同時に言う

セティーナ 「シヅアの」

ディデュダ 「シヅアの」

アリスローズ 「シヅアの」

シヅア「わたしの……」

>手伝おうとするシヅアを3人が制止して誕生日パーティーの準備を始める。

セティーナ「はいはい、主役は座って座って」

ディデュダ「はいはい、主役は食べて食べて、」

アリスローズ「はいはい、主役は飲んで飲んで、ほらほらぐいーっと」

シヅア「ちょ、ちょっと……」

>セティーナがケーキを持って来る

セティーナ「誕生日と言えばやっぱりケーキ」

>ディデュダが蝋燭を持って来る

ディデュダ「誕生日と言えばやっぱり蝋燭」

アリスローズ「誕生日と言えば……」

>プレゼントボックスをばら撒いてしまう。

みんなシーンとする。

>シヅアが、それを見て大笑いする。

シヅア「あはは、ありがとう。大丈夫だよ。こんなに笑ったの久しぶり」

セティーナ「じゃあ始めましょう」

ディデュダ「お誕生日パーティー」

アリスローズ「じゃあ歌いましょう」

シヅア「……ありがとう」

>みんなでハッピーバースディソングを歌う終わり

>シヅアが蝋燭の火を吹き消すと同時に

暗転

バラバラと音が鳴り（拍手と銃声）

曲が鳴る

完

藝術劇場かなでるみらいのあしおと
Dream Land Circus with Bad Company

げきちゅうきょく
劇中曲

きょくめい
曲名：ポップンデジカム

きょくめい
曲名：スタートーズキッドベルトオルゴール

かしょう
歌唱

きょくめい マイ フェイバリット シングス
曲名：My Favorite Things

Dream Land Circus with Bad Company
作：宇里香菜

藝術劇場かなでるみらいのあしおと
Dream Land Circus with Bad Company

Dream Land Circus with Bad Company
作：宇里香菜